

U.S. Indicators

発表日: 2024年1月31日(水)

米国1月の消費者マインドは個人消費の好調示唆

～1月の現状判断が大幅に改善し景気の底堅さを示す～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 050-5474-7493)

24年1月のCB消費者信頼感指数は、114.8（前月 108.0：改定前 110.7）と6.8ポイント上昇し市場予想の114.8（筆者予想 114.0）を上回った。現状指数が161.3（前月 147.2：改定前 148.5）と前月比+14.1ポイント上昇したうえ、期待指数が83.8（前月 81.9：改定前 85.6）と同+1.9ポイント上昇した。所得の拡大が続くもと、エネルギー価格の下落や金利の低下による家計負担の軽減、資産価格の上昇等を背景に景気に対する楽観的な見方を強めたほか、良好な労働市場により雇用に対する楽観的な見方を強めたことで、現状指数は上昇した。また、所得の先行きに対する楽観的な見方が強まったほか、雇用の先行きに対して楽観的な見方に転じたことで、期待指数は上昇した。

1月のCB消費者信頼感指数が良好な労働市場や所得環境を背景に高い水準に上昇したほか、ミシガン大学消費者マインドが78.8と急上昇しており、個人消費の好調持続を示唆した。

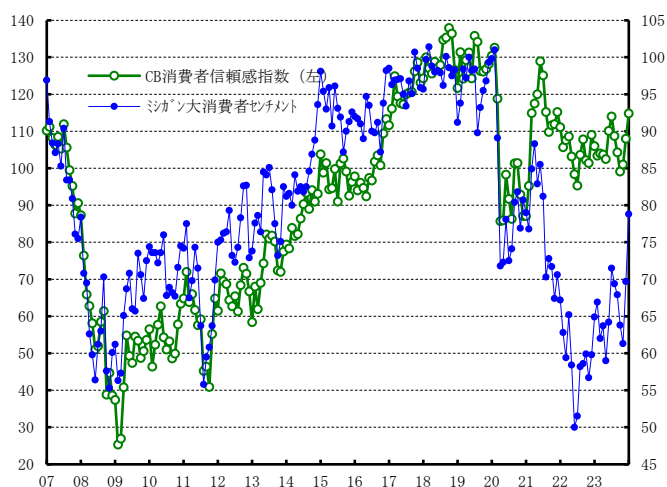
現状指数の構成項目では、「景気」、「雇用」がプラス幅を拡大した。現在の景気に対する判断（「良い」-「悪い」）が+8.3（前月+3.9：速報+5.2）とプラス幅を拡大、現在の景気に対して楽観的な見方を強めており、景気の堅調持続が示唆されている。また、現在の雇用機会に対する判断（「充分」-「困難」）が+35.7（前月+27.3：速報+27.5）とプラス幅を拡大、現在の労働市場に対する楽観的な見方を強めた。現在の雇用機会に対する判断（「充分」-「困難」）がプラス幅を拡大すると、失業率が低下する傾向があり、1月の失業率が12月の3.7%から低下する可能性の高いことを示している。

期待指数の構成項目では、「景気」がプラス幅を縮小した一方、「収入」がプラス幅を拡大したほか、「雇用」がプラスに転じた。6ヵ月後の景気に対する見方（「良くなる」-「悪くなる」）は、+0.6（前月+0.9：速報+2.7）とプラス幅を縮小し、景気の先行きに対する楽観的な見方が若干弱まった。一方、6ヵ月後の収入に対する見方（「増加する」-「減少する」）は、+4.9（前月+4.7：速報+6.1）とプラス幅を拡大し、収入に対する楽観的な見方を強めた。また、6ヵ月後の雇用に対する見方（「多くなる」-「少なくなる」）は+0.7（前月▲0.8：速報+0.6）とプラスに転じ、雇用の先行きに対して楽観的な見方に転じた。

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

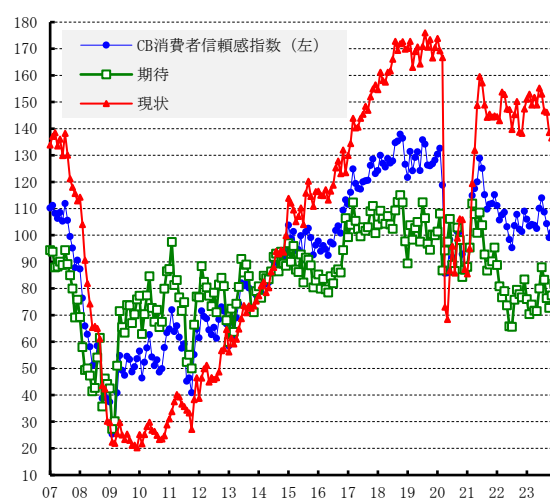
	消費者信頼感指数										ミシガン大学消費マインド*	
	期待指数	現状指数	雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		期待	現状		
充分			困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅					
23/04	103.7	71.7	151.8	47.5	10.6	14.1	21.4	10.0	5.5	63.7	60.6	68.5
23/05	102.5	71.5	148.9	43.3	12.6	13.2	21.4	11.5	5.9	59.0	55.1	65.1
23/06	110.1	80.0	155.3	45.4	12.6	14.6	17.7	11.0	5.9	64.2	61.1	68.9
23/07	114.0	88.0	153.0	43.7	11.3	17.2	14.5	11.7	5.6	71.5	68.3	76.5
23/08	108.7	83.3	146.7	39.9	13.2	17.5	17.3	12.3	6.1	69.4	65.4	75.5
23/09	104.3	76.4	146.2	39.7	14.2	15.3	18.7	11.7	5.5	67.9	65.8	71.1
23/10	99.1	72.7	138.6	37.9	14.1	15.5	20.9	10.3	5.0	63.8	59.3	70.6
23/11	101.0	77.4	136.5	38.6	15.6	17.2	20.1	10.7	5.0	61.3	56.8	68.3
23/12	108.0	81.9	147.2	40.4	13.1	18.7	17.8	11.9	5.3	69.7	67.4	73.3
24/01	114.8	83.8	161.3	45.5	9.8	16.6	16.0	10.0	4.7	78.8	75.9	83.3

(図表) 消費者マインドの動向(月次)



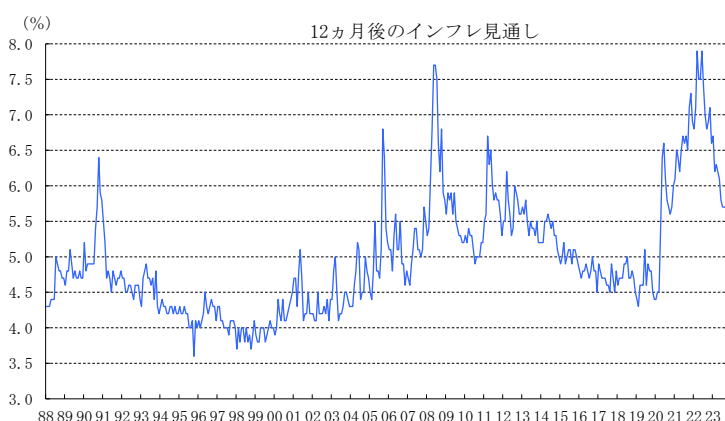
(出所) CB、ミシガン大学

(図表) 消費者マインドの動向(月次)



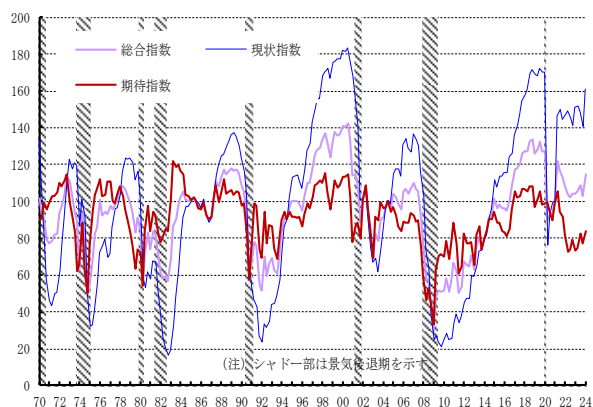
(出所) CB

インフレに関しては、1年先のインフレ見通しが5.2%（前月5.5%）と依然高い上昇が予想されているが、低下傾向を辿っており、インフレの低下継続を示唆している。

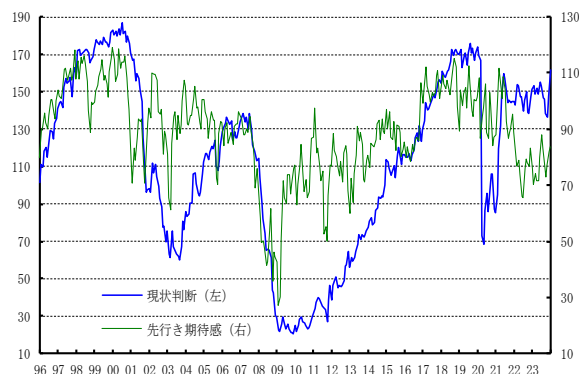


24年は、利下げ期待の高まりを受けた長期金利の低下や、景気の先行きに対する楽観的な見方等が、期待指数の上昇に繋がる可能性が高い。一方、これまでの利上げや中堅銀行の破綻を受けた信用状況の引き締め、コスト増加等を受けた景気の減速、労働需給ひっ迫の緩和を背景に、現状指数が低下すると見込まれる。この結果、CB消費者信頼感指数は100程度に低下し、個人消費の緩やかな減速の一因になると予想される。

消費者信頼感指数の推移(四半期)

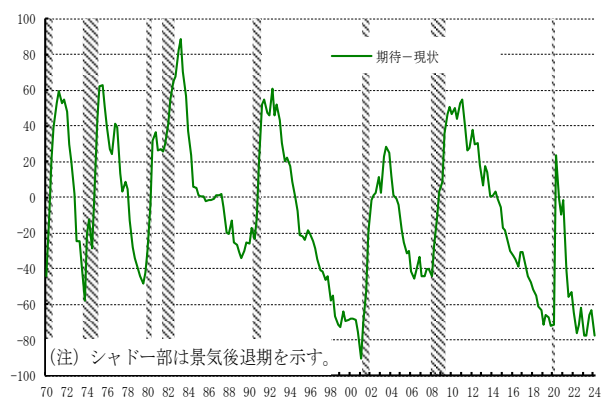


消費者信頼感指数の推移

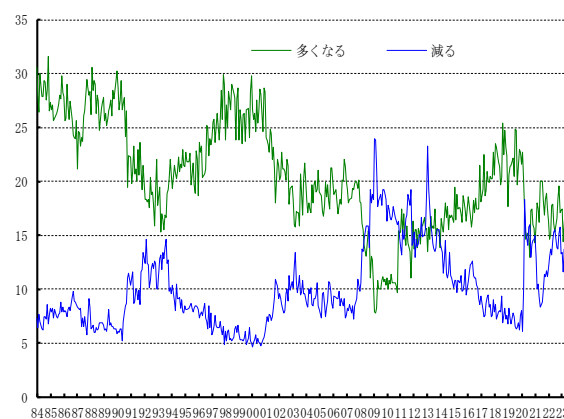


(出所) C B

(期待指数-現状指数)の推移



(%) 6ヶ月後の収入見通し



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

